



TITLE:

表紙・投稿規定・人のうごき・プレプリント・編集後記・目次・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・人のうごき・プレプリント・編集後記・目次・裏表紙ほか. 物性研究 1970, 14(3): 232-243

ISSUE DATE:

1970-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88112>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
昭和45年6月20日発刊 (毎月1回20日発行)  
物性研究 第14巻 第3号

vol. 14 no. 3

# 物性研究

1970 | 6



1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress**、**Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。  
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。  
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、o と a と 0 (ゼロ)、u と n と rr、c と e、l (エル) と 1 (イチ)、x と × (カケル)、u と v 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (a p + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがあります  
すから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。

上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。

英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、o と a と 0 (ゼロ)、u と n と rr、c と e、l (エル) と 1 (イチ)、x と × (カケル)、u と v 等が一番間違いやすい。

4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (a p + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがあります  
すから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

## ニ ュ ー ス

昭和44年度DC卒業者，提出論文名（物性理論のみ）； 東大・理

福山 秀 敏      Bloch Electrons in Magnetic Fields

塚田 捷      セル法による不規則系の研究

地方大学だより

○ 福山秀俊氏（東北大・理・物理・真木研）

5月8日から1ヶ月の予定で，九大・理・物理・都築研に滞在。

○ 特別講義

西田 稔（京大・理）； 九大・理

「天性の物性」（5月27日～30日）

同時に，5月29日に下記の特別講演が行なわれた。

「天体物理学の最近の発展から — 恒星状天体の問題」

## プレプリント案内

〔東大・理・久保研〕

○ Dielectric Response Function of Electron Liquids  
(Setsuo Ichimaru)

○ Localization of Electrons in Certain Random Lattices  
(Minoru Kikuchi)

○ Theory of Diamagnetism of Bi-Sb Alloys  
(F. A. Buot)

## ニ ュ ー ス

昭和44年度DC卒業者，提出論文名（物性理論のみ）； 東大・理

福山秀敏 Bloch Electrons in Magnetic Fields

塚田 捷 セル法による不規則系の研究

地方大学だより

○ 福山秀俊氏（東北大・理・物理・真木研）

5月8日から1ヶ月の予定で，九大・理・物理・都築研に滞在。

○ 特別講義

西田 稔（京大・理）； 九大・理

「天性の物性」（5月27日～30日）

同時に，5月29日に下記の特別講演が行なわれた。

「天体物理学の最近の発展から — 恒星状天体の問題」

## プレプリント案内

〔東大・理・久保研〕

○ Dielectric Response Function of Electron Liquids  
(Setsuo Ichimaru)

○ Localization of Electrons in Certain Random Lattices  
(Minoru Kikuchi)

○ Theory of Diamagnetism of Bi-Sb Alloys  
(F. A. Buot)

スプリント案内

- Transport Coefficients of a Fermi Liquid on the Paramagnon Model (M.J.Rice)
- Distribution of Eigenfrequencies for the Wave Equation in a Finite Domain 1-Three-Dimensional Problem with Smooth Boundary Surface (R.Balian and C.Bloch)
- The Rigorous Theorems for the Heisenberg Ferromagnets (Taro Asano)
- Magnetism of Semimetals (Kenjro Miyano)
- Hard Sphere Gas in the First Covering Sphere Approximation (A.Sabry)
- Theory of Spinodal Decomposition in Alloys (J.S.Langer)
- Anomalous Properties of a Normal Fermi Liquid at Low Temperatures (S.Misawa)
- Anomalous Electron-Phonon Resistivity of Metals Containing Magnetic Impurities (M.J.Rice and O.Bunce)
- The Magnetic Structures of  $\text{RbNiCl}_3$  and  $\text{CsNiCl}_3$  (V.J.Minkiewicz, D.E.Cox, and G.Shirane)

[ 日大・理工 ]

- Decoupling of the Double-Time Green Functions and the Diagram Technique (N.M.Plakida)
- Boundary Conditions for the Statistical Operators in the Theory of Nonequilibrium Processes and Quasi-Averages (D.N.Zubarev)
- Construction of Statistical Operators for Nonequilibrium Processes (D.N.Zubarev and V.P.Kalashnikov)

- Method of the Nonequilibrium Statistical Operator and its Application I  
Transfer Processes in the Manycomponent System  
(D.N. Zubarev)
- To the Stability of a Linear Chain (T. Siklos)
- Phase Transition of the Lennard-Jones System I  
The High-temperature limit (Jean-Pierre Hansen)
- On the Stability of the Anharmonic Crystal  
(W.K. An)
- Critical Power Dissipation in a Superconductor  
(Mario Rabinowitz)
- The Rigorous Theorems for the Heisenberg Ferromagnets  
(Taro Asano)
- The Diagrammatic Analysis of the de Gennes Model in the Theory of the Ferroelectrics with Hydrogen Bonds.  
(I.V. Stasyuk and R.R. Levytskyj)
- The Quantum Correlation Theory of the Electronic and Nuclear Motions in a Molecule (A.A. Serikov)
- The Solution of the Three-Particles Integral Equations by the Separable Expansion Method  
(V.F. Kharchenko, N.M. Petrov, V.E. Kuzmichev)

[ 九大・理・物理・物性理論 ] ( 森, 川崎, 都築 )

- Generalized Hydrodynamics : Application to Light Scattering from Dilute Gases (Selwyn, P.A.)
- Sound Attenuation and Dispersion near the Liquid-Gas Critical Point (Kawasaki, K.)
- Kinetic Equations and Correlation Functions of Critical Fluctuations (Kawasaki, K.)



プレプリント案内

- Ultrasonic Measurements near the Critical Point of  $\text{He}^4$  (Barmatz, M.)
- Sound Attenuation and Dispersion near the Liquid-Gas Critical Point [Errata and Addenda] (Kawasaki, K.)
- On the Theory of Translational and Orientational Melting with Application to Liquid Crystals (Kobayashi, K.K.)
- Self-Consistent Treatment of the Wolff-Moriya Model (Shibata, F. and Mamada, H.)
- Concavity of Magnetization of an Ising Ferromagnet in a Positive External Field (Griffiths, R.B.)
- Self-Consistent Treatment of Anderson Model and Magnetic Susceptibility (Mamada, H. and Takano, F.)
- Anomalous Behavior of Sound near the Curie Points in Displacive-Type Ferroelectrics (Tani, K. and Tsuda, N.)
- Hard Sphere Gas in the First Covering Sphere Approximation (Sabry, A.)
- The Elastic Scattering of Atoms by Atoms (Pope, R.L. and Tassie, L.J.)
- Spin Waves and the BCS Model (Wahrl, A.)
- Spin Ordering in a Spin-Pair System (Tachiki M. and Yamada, T.)
- An Anomalous Attenuation of the Sound near Spin-Flop Transition Points (Tani, K.)
- Stochastic Theory of Chemical Kinetics (Teramoto, E. and Shigesada, N.)
- The Longitudinal Dynamic Magnetic Susceptibility in the Low Frequency Range (Sauermann, G.)
- Time Dependent Longitudinal Spin Pair Correlation in Isotropic Antiferromagnets (Villain, J.)
- Kinetic Equations and Time Correlation Functions of Critical Fluctuations (Kawasaki, K.)

[ 東大・教養 ]

- Electrical Conduction in a Narrow Band. II. Effect of Randomness in Atomic Distribution (Ohata, N.)

## 懸賞論文入選発表

### 「物性研究」編集部

当編集部は創刊5周年記念事業として「物性物理学をどのように発展させるか」をテーマとする懸賞論文を募集して来ました。募集の主旨〔物研 Vol.11 (1969, 3月), p. 460〕にもありますように「物性物理学の発展」と云う題は広い意味に考え、論文の内容、中心テーマとしてはある分野の現状分析と将来像を中心とするような純学問的なものであってもよいし、例えば研究体制、教育のあり方、大学の自治と民主化につながりを持つような体制論的なものまで種々あってよいとしました。

また懸賞応募として投稿されたもの以外も募集期間(多少その前後も含めて)内に投稿されたものはすべて懸賞の対象とすることにしました。

編集部は3回の編集会議において選考を行ない、下記のような経過により結局次の二論文を入選論文に選び、それぞれの著者に賞金として各3万円を贈呈することに決定しました。(以下敬称略)

### 入選論文

- 勝木 渥； 共同利用研究所と「地方大学」

[ Vol.11 (1969, 3月), p. 446 ]

- 京大・物理第1教室生物物理自主研究グループ；

研究者の論理と実践

[ Vol.13 (1969, 10月), p. 45 ]

### 選考経過

京都編集部では本年3月18日の編集会議において先ず下記の論文を受賞候補に選び、このことを各地編集員に伝えて意見を求めました。(順不同)

## 純学問的論文

- 飯田修一，藤川頼彦； 古典電磁力学の一限界領域をめぐって  
[ Vol.12 ( 1969 , 9月 ) , p. 377 ]
- 池田 恵；レオロジーの幾何学的研究  
[ Vol.12 ( 1969 , 6月 ) , p. 178 ;  
( 7月 ) , p. 233 , 245 ,  
Vol.13 ( 1969 , 10月 ) , p. 17 ;  
( 1970 , 3月 ) , p. 443 ]
- 大貫 信；神経力学 [ Vol.13 ( 1969 , 12月 ) , p. 148  
( 1970 , 1月 ) , p. 259 ;  
( 2月 ) , p. 351 ]
- 竹山尚賢；ブラウン運動と量子力学  
[ Vol.12 ( 1969 , 9月 ) , p. 415  
Vol.13 ( 1969 , 11月 ) , p. 67 , 76 ;  
( 12月 ) , p. 131 ]

## 一般論文

- 池田 恵； 研究の“自由”について  
[ Vol.12 ( 1969 , 6月 ) , p. 199 ]
- 勝木 渥； 共同利用研究所と「地方大学」  
[ Vol.11 ( 1969 , 3月 ) , p. 446 ]
- 蔵本由紀； 何のための研究か？  
[ Vol.13 ( 1969 , 10月 ) , p. 38 ]
- 京大・物理学第1教室生物物理自主研究グループ；  
研究者の論理と実践  
[ Vol.13 ( 1969 , 10月 ) , p. 45 ]

たゞし純学問的論文としては，ここに選んだものが他のものより学問的価値が高いとの判断によるものではなく，いわば本懸賞の主旨に近いと考えられるものを取上げることにしました。従ってたとえそれが或分野において重要な寄与となるものであっても，その分野の現状分析とか将来像に対する見解に余り触れていないものは一応外して考えることになったわけです。

各地編集員の中，東大物性研桜井明夫氏より若干の意見が書面で寄せられました。4月20日の編集会議ではこの意見を中心に，活潑な討論が行なわれました。

純学問的論文に対しては，論文それ自体のもつ学術的優劣に関する判断を含めて，責任をもって推せん出来るという論文がなかったならば，あえて賞を贈ることは出来ない。また入賞作は物性研究の一般的常識をもつ人に訴えかけ，影響を与えるようなものでなければならない。池田，竹山両論文は意図するところは規模雄大であるかも知れないが，その物理的意義が現時点では余り明瞭ではなく，一般的読者への訴えかけに乏しい。この意味で純学問的論文を更にしぼるとすると，候補として飯田，大貫両論文を残すのが適當であるとして，論文内容に近い仕事をしておられるベテランをレフェリーとして各2名ずつ選定し，Progress of theoretical Physics のレフェリーに準ずる扱いでレフェリー依頼を致しました。

一般論文については，湯浅論文は日本における自然科学の輸入科学性を指摘して，国産科学を作る場の新設が先決であるとされている。独創的主体的な科学研究も推進することの重要さは指摘するまでもないが，この論文はいさゝか国粹主義的な独断的意見が表に出過ぎていて，現状分析を踏まえた説得力を持っていないとして先ず候補より外されました。

池田論文については，当人が目指す方向と置かれた環境との矛盾のようなも

のに同情はするが、不満を並べたてた少々八つ当りの論文で、あちらこちらに甘えがみられる。もっとたくましいものを期待したいとして、これも支持が得られませんでした。

蔵本論文は科学研究の価値自体に疑問を投げかけ、この基本的問題から目をそらし、専門分野に埋没しようとする研究者の姿勢を告発し、「没意味化された学問研究の意味を生全領域との連関の下に問い直す」と云ういわゆる学園闘争における一つの中心的思想を強調しています。この論文に対しては編集部内にはかなりの支持がありましたが、有名な広重論文〔自然 1969, 2月〕の出た後の時点において、この論文によって果して何が新しく提起され、明らかにされたかを省みるならば、やはり弱さ物足りなさを感じる。文末で「私達研究者にとってぜひともとり組まなければならない課題として、共同研究と地方大学問題の捉え方についての意見を述べているが、この部分は、たとえば、物性研は東大の第二理学部であるというようないさゝか独断的と云われてもやむを得ぬものを含んでおり、この論文の説得力に対して反って逆効果に働いているようにも思える。全般的に情緒的、文学的、随筆風で、著者も懸賞応募論文とは考えずに書かれたであろうし、結局これでは候補から外さざるを得ないと云うことになりました。

かくて4月20日の編集会議は飯田、大貫、勝木、京大自主研の4論文のみを残すこととし、レフェリーの意見待ちの形で、決定を次回の編集会議に持越ししました。

最終決定のための編集会議は5月21日開かれました。まずレフェリー(Progress等の例に従って、レフェリー名は編集部外へは匿名とします)の意見を中心に、学術的論文に対して意見が交換されました。

大貫論文に対しては、両レフェリーとも「神経回路網の方程式に確率論的処理をほどこして神経力学の基礎方程式を導き、さらに物性論的手法との類同により理論を展開し、人間の脳の動作を説明しようとした試みで、きわめて野



心的でスケールの大きさもある」とされています。しかし「このような方法の基礎づけと適用限界を明確にするための検討が不十分であり，ここで行なわれているような近似では本質的な点が落ちているように思われる」と云う意見です。従ってこれはまだ純学問的論文として受賞作とは云い難い。大貫氏の今後の研究に期待したいと云うことになりました。

他方，飯田論文は古典電磁気学における Maxwell 方程式の包含する物理的内容，特に物質との相互作用の解釈に関して「ほとんど100%に近い物理学者が容易には正しく答えられない」ような種々の難問，問題点を提起し，それに対しいくつかの結論を与えています。レフェリーによれば「この種類の問題，つまり一応は教科書物理の範囲で解決がつくべき問題でありながら，一方においてそれを正しく適用することが非常に困難であるような問題について，これらを正しく討論する場がほとんどないこと，また討論できる人が少ないことより，して，本誌がこれを採録したことはよいことである」とされています。しかもレフェリーはこの論文の結論を支持しておられ，内容の高さからみても物性研究に掲載されるべき論文としてはふさわしいものの一つと云えましょう。しかし果してこの論文が物性研究の一般的常識をもつ人に強くアピールする表現を取っているか，「物性物理学をどのように発展させるか」の募集の主旨に対する適合性と云う面から見ると，これを入選とすることはやはり無理があるとし，結局純学問的論文には入選作なしとして一般論文に移りました。

まず勝木論文は，「地方大学」の現状分析を踏まえて「地方大学」における研究推進上の問題点を具体的に指摘し，「地方大学にとって最も必要なことは自らの研究の根拠地を「地方大学」自身の中に確立することである」としている。更に「地方大学」における研究推進のため共同利用研の役割を強調すると共に新しい提案を行い，最後に「地方大学」が日本の物性研究の中で果すべき意義と役割は「日本の高等教育における物理教育のあり方，それへの専門物理学者としての責任の問題，高等教育の中での研究と教育との相互連関の問題，研究の大都市集中自体のもつ意味等との関連づけ」の中に求められるのではないか」

として今後の課題を指摘しています。この論文に対しての著者の議論は物性物理学の発展が、どうして中央大学中心ではいけないのかと云う他派の議論を論破していないので不満足であるとする意見も出ました。しかし「地方大学」は物性物理の発展には決して無縁である筈はなく、現実では「地方大学」問題はわが国における研究教育のあり方上、極めて重要な問題であることは明らかだと思います。この時点でこれに対する問題点だけでも具体的に指摘したことは、この論文の価値として大いに認められるべきでしょう。特にこの論文を契機として論文「共同利用研究所と地方大学」について〔堀 淳一、物研 Vol.12 (1969, 5月), p. 142〕が投稿され、「地方大学」における研究の一つの行き方が示唆されました。これは「議論が議論を呼ぶ」と云う本誌の趣旨にも合致しています。このような評価の下で勝木論文がまず入選と云うことに決まりました。

次に京大自主研究グループの論文は、まず科学にまつわる客観性とか普遍性とか云ったものに対する観念的・絶対的価値観が研究実践に対する<意味>づけにおいて研究者の中から抜け切らず、その結果として研究者は自己の専門領域に閉じこもり、研究者と云う自己の存在が社会的に自立し、独立したものと思ひ込む社会的ユートピアに陥ること」を指摘し、そのような観念の現実性は正にユートピア(nowhere)であることを述べている。このように研究者が自らの研究を自ら掌握できないと云う状況はすでに研究室の中で現われており、それに対処するには制度のいわゆる「民主化」と云うような問題ではなく、個々の研究者が自立的・主体的研究者へと自己を変革することに求められるべきであるとしている。具体的には研究・教育過程に一切の管理、支配は不要であり、対話と相互批判のみで十分であるとし、その組織は各研究者の主体的基盤の上に成立してこそ研究・教育は一つの自己形成の過程になり得るのであり、このことは「批判的実践による変革主体の形成なしには空語である」と結んでいます。この論文の前半はとにかく、後半特に「研究・教育過程に一切の管理、支配は不要である」とする所はかなり独断的で、色々と異論はあろうし、ユニ

ットを解体すべき必然性も十分の説得力で述べられているとは云えません。けれどもこの論文は勝木氏のようにすでに研究者としての経歴をもち、その地位を確保した研究者ではない若い人々が自らの体験をへてまとめられたもので、重要な問題点が洞察されており、問題の捉え方が限定的でない点では勝木論文よりむしろ広く多くの研究者に訴えるものを持っていると云えましょう。この論文は、勝木論文とは著者の立場、論文の論点共にいわば相補的な性格をっており、これも入選作としてふさわしいものと決まりました。

## 編集後記

4月から5月にかけて、今迄、編集部で活躍下さった、Tさん、Yさんが、それぞれ京都以外の地へ移られたため、編集員を辞される事になりました。特に、Yさんは、この誌の編集長をされたり、去年は、持前の「若さとバイタリティー」で、次々とユニークな特集を計画されて、大活躍でありましたが、今度は少々残念な気がします。

およそ、一年余りの期間を設けて募集した懸賞論文の授賞作が、この度の編集会議で決定しました。編集部内でもいろいろ意見が出、又地方編集員の方々も貴重な意見を提出して下さいました。結局は、現在の学問、研究の一般的な状況を扱った、二編が入賞と決定されましたが、現在の我々にとって、1969年とは？という問題を考えさせ、何らかの考えを発展させる一つの資料となり得ると思います。

なお、今まで余り交流のなかつた、京都編集員と地方編集員の交流を含めた「読者の会」とでもいふべきもの開いたらどうかという意見が寄せられ、何かその様な事を、目下考案中です。

5月22日

< T.S >

物 性 研 究

第 14 卷 第 3 号

1970年6月20日発行

発行人 松 田 博 嗣

京都市左京区北白川追分町

京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和堂印刷所

京都市上京区上長者町室町西入

TEL (441) 1659 (430) 4789

発行所 物性研究刊行会

京都市左京区北白川追分町

京都大学湯川記念館内



## 購読規定

### 個人購読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって3月末までになるだけ(1年間分会費を御支払い下さい。なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

#### ※ 1年間の会費

1st volume	960円
2nd volume	960円
計	1,920円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。  
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vol. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. 1,800円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。



物 性 研 究 14—3 (6月号) 目 次

◎ 「殆んど自由な電子」の多体理論と周期場中の陽電子消滅	藤原 邦男	179
◎ 「非局所」な「非対称」——物理的相互作用場の構築について——	池田 忠 恵	203
◎ 水素結合系中の陽子による電気伝導	吉川 功	210
◎ 神経方法式(1)	大貫 信	220
◎ ニュース		232
◎ プレプリント案内		232
◎ 懸賞論文入選発表		236
◎ 編集後記		243



物 性 研 究 14—3 (6月号) 目 次

◎ 「殆んど自由な電子」の多体理論と周期場中の陽電子消滅	藤原 邦男	179
◎ 「非局所」な「非対称」——物理的相互作用場の構築について——	池田 忠 恵	203
◎ 水素結合系中の陽子による電気伝導	吉川 功	210
◎ 神経方法式(1)	大貫 信	220
◎ ニュース		232
◎ プレプリント案内		232
◎ 懸賞論文入選発表		236
◎ 編集後記		243